

子ども食堂 食を通して地域で 子どもの体と心をサポート



NPO法人「全国子ども食堂支援センター」

むすびえ 地域ネットワーク支援事業マネージャー補佐

葛西優香

全国に3700力以上 運営の担い手も多様化

「NPO法人むすびえ」(理事長・湯浅誠)は、全国の子ども食堂ネットワーク団体に情報を提供したり、企業と結びつけたり、実態調査などの活動をしています。

私たちの調査では、今年6月の時点で全国の子ども食堂総数は3718力所。この1年で、1400力所以上増えています(図①)。3年間で12倍と急増していますが、私たちの目標は「全小中学校区に最低一つ」(全国約2万力所)なので、ま

だまだ十分だとはいえませんが。

地域ネットワークもまだ28都道府県にしかないため、他県でも立ち上げるように支援・準備を進めています。

今、子ども食堂は、地域の「多世代交流拠点づくり」と「子どもの貧困対策」の2本柱で成り立っています。少数の子どもや家族と深くかかわるところもあれば、毎回300人も集まるイベント型の活動スタイルもあります。

子ども食堂を開設する人びとは、主に地域の女性たち。子育て中の30代のお母さんたち、50代後半以降から60代の子育

てが終了した女性たちの二つの世代があります。

ただ、最近は担い手も多様化していて、図書館に通うことが日課となっていた定年後の男性も、地域によっては、積極的に参加されています。

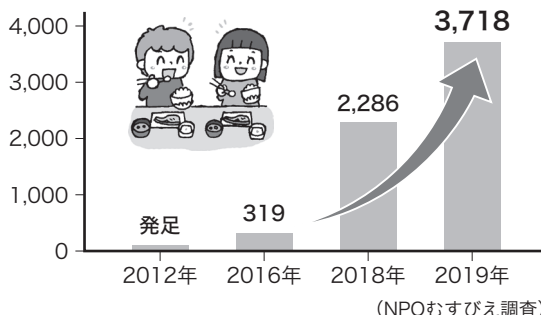
増える「見えにくい貧困」 気づきの場としての意義

「多世代の交流拠点」としての役割は、たとえばご近所のシングルマザーの方が育てる子どもを地域のおばあちゃんに連れて来て、ご飯を食べさせ、子どもたちの面倒を見る。そこでは定年後の男性が食事

作りに腕をふるっている。おばあちゃんも男性も、元気な子どもたちにパワーをもらおうというように、老若男女が集う場所になっているのです。

このように、子ども食堂は必ずしも「子どもの貧困」だけに限定したものではありません。ただ、子どもの貧困の問題は、食事という物的なことだけではなく、孤独や心の貧困の問題もあり、依然として小さくあり

図① 全国で急増する子ども食堂



葛西優香(かさい ゆか):大阪府豊中市生まれ。09年同志社大学経済学部卒。阪神・淡路大震災などの被害を身近に経験し、防災士、コミュニティーデザイナーに。「防災拠点としての子ども食堂」の視点で、今年から「むすびえ」でも活動中

Profile



2013年スタートの要町あさやけ食堂(東京・豊島区)
アレルギーにも配慮した安心食材使用

ません。

子ども食堂でコロッケが出ても「これ何?」と言う子がいて、コロッケを食べたことがなかったり、鍋を出したら「鍋をつつくって、本当に箸でつくんだね」なんて言うような子がいたら、「家庭でちゃんとした食事をしていないんだな」とまわりも気づきます。

そうした見えにくい貧困に気づく場として、子ども食堂は

重要な役割を果たしています。

子ども食堂の運営者の多くは、「貧困などの問題を抱えた子は2、3割ぐらい」と言います。そういう子の存在を察知したら、行政や民間の福祉関係者につなげて見守っていく。子ども食堂だけで解決するのではなく、地域の関係者と協働していくことで、貧困の解決につながるのではないかと考えています。

そんなふうには、できるだけ多くの人が参加して、子どもが来やすい雰囲気にすることが大事なのではないでしょうか。

誰もとりこぼさない社会へ 人をつなぐ子ども食堂

自治体など、公的な機関がもっと力を出すべきではないかという意見もあります。もちろん公的な補助があれば、運営は楽になりますが、実際に子ども食堂を運営している方た

ちは、自発性、自主性でやっているの、必ずしも公的なサポートを必要としていたり、求めたりしているわけではありません。

一方で、子ども食堂の活動に協力的な自治体もかなり増えてきています。たとえば、静岡県磐田市の市長は、学校で朝食を提供する子ども食堂の準備を始めると、宣言しています。

また、埼玉県や滋賀県でも、全小学校で子ども食堂のような場所を整備すると、知事が発言しています。

兵庫県明石市は「子ども食堂からみんな食堂へ」と宣言して、より多世代交流型の施設にしていく構想を打ち出しています。沖縄県は、知事や県庁が力を入れていることもあって、普及率は全国トップです。

「少なくとも小学校区に一つ」という目標も今のペースでいけば、10年以内には到達で

きるのではないかと考えています。

食中毒を起こさないことが重要ですが、みなさん保健所の指導を受けるなど、衛生面には相当気を使われています。

まずは始めてみて、何か問題が起きたら、それもみんなの力で乗り越えていくのが子ども食堂なのだと思います。

全国どこでも、誰でも歩いていける範囲に子ども食堂が増えたら、日本の社会全体が変わっていくのではないのでしょうか。

昔から日本にあった、多世代がお互いに助け合って生きていく社会の復活。子ども食堂をきっかけに国連のSDGs(持続可能な開発目標)にもあるような、一人も取りこぼさずとなく、みんなが助け合って生きていける社会に変わっていくのではないかと考えています。(談)

